

令和四年度 大阪国税局長賞

顔も知らないあなたへのバトン

橿原市立八木中学校 三年 辻 星花

私は幼い頃から体が弱く、聞きなれない病気にかかっては入院を繰り返してきました。小学校を入学してから数ヶ月が経過したある日、私は高熱を伴う病気にかかり、またもや病院で生活することになりました。しばらくして、治療方法が見つかり、薬を投与すると、病状はみるみるうちに回復していきました。しかし、その際に聞こえてきた薬の値段はあまりにも高額で、耳を疑うものでした。元気になったことに歓喜する一方で、私の中には、父と母に金銭的な負担をかけてしまったことへの罪悪感が日に日に積み重なっていきました。そんな私を見た母は、「このお薬はね、税金で少し安くしてもらっているんだよ。」と教えてくれました。当時の私は幼いなりに「元気になれたのは、税金を納めている人達のおかげでもあるんだな」と感動したことを覚えています。

あれから約八年の月日を経て、この作文をきっかけに、より詳しく、また、確かな知識を得るために、税金について調べてみることにしました。

私たちが普段、消費税や所得税などとして納めている税金は、学校や病院、道路等、様々なものに姿を変えて私たちの生活に豊かさをもたらしています。また、現在実施されている新型コロナウイルスのワクチンも、税金によって無料で受けることが可能になっています。薬だけにとどまらず、税金は私たちの生活を守るためのしくみを常に整えてくれていたのです。

今までは、税金について考えようともせず、知っているふりをして、「消費税を上げてばかりで政府は何がしたいんだろう」と目先のことにとらわれた浅はかな考えをしていました。けれど、自分自身で税金について学び、原点に戻って考えてみることで、今、毎日学校に行き勉強できていることや、悪い人がいたら警察官が捕まえてくれること、毎週ごみを回収してくれること、このような当たり前前に繰り返していた日々のほとんどが税金によって支えられているということがわかりました。そもそも、今私が生きていること自体が、税金を通じて多くの人々に助けをもらい、病気に打ち勝つことができたからです。

もしかしたら今も、私のように税金によって命を救える人がいるかもしれません。今の私には、消費税くらいでしか税金を納める機会はありませんが、自分で働いて税金を納めることができるようになった際には、そのような状況下にある人達のためにも、きちんと税を納めていきたいと思いました。幼少期の私を救ってくれた顔も知らない誰かへの感謝と恩返しを胸に、今度は私が顔も知らない誰かの命と笑顔のために税と向き合っていきたいです。